令和８年度　第１回　西新宿スマートシティ協議会　議事録 **【公開用】**

日時：　■　2026 年６月 23 日（火）13:00～14:00

開催方法：　■　オフライン・Web 併用

場所：　■　東京都庁 第一本庁舎 33 階 特別会議室 Ｎ６

出席者：　【協議会構成員】

（敬称略）
- ■　一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会
- ■　小田急電鉄株式会社
- ■　住友不動産株式会社
- ■　学校法人工学院大学
- ■　損害保険ジャパン株式会社
- ■　大成建設株式会社
- ■　東京ガス株式会社
- ■　東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社
- ■　独立行政法人都市再生機構
- ■　NTT ドコモビジネス株式会社
- ■　株式会社ＪＴＯＷＥＲ
- ■　東京電力パワーグリッド株式会社
- ■　ソフトバンク株式会社
- ■　NTT 東日本株式会社
- ■　株式会社ジョルテ
- ■　新宿区
- ■　東京都　デジタルサービス局
- ■　東京都　都市整備局
- ■　東京都　産業労働局

議　題：
1. 開会の挨拶
2. 協議会参加者の紹介
3. 令和 7 年度・第 3 回協議会の振り返り
4. 今年度の取組スケジュール
5. 各部会の目標設定・活動内容
   - 5-1.スマートサービス実装部会
   - 5-2.広報・コミュニティ部会
   - 5-3.データ利活用部会
6. 質疑応答及び意見交換
7. 閉会の挨拶

資　料：　1. 令和８年度第１回協議会資料

1. 開会の挨拶

○ 事務局より挨拶

2. 協議会参加者の紹介（事務局）

○ 協議会参加者の紹介

3. 令和７年度・第３回協議会の振り返り

○ 資料のとおり説明

4. 今年度の取組スケジュール（事務局）

○ 資料のとおり説明

5. 各部会の目標設定・活動内容

5.1 **スマートサービス実装部会**

○ 資料のとおり説明

5.2 広報・コミュニティ部会

○ 資料のとおり説明

5.3 データ利活用部会

○ 資料のとおり説明

6. 質疑応答及び意見交換

―以下意見交換内容―

〈Shinjuku Future Gallery・屋外映画祭など、地域の賑わい創出について〉

（発言者A）

○ 本年 6 月 10 日に Shinjuku Future Gallery をオープンし、延べ来館者数が 1,000 名を超えた。施設では新宿駅工事の内容や将来像等を紹介しており、アンケートも好意的な意見が多くなっている。

○ 7 年ぶりに実施となる新宿中央公園で行った屋外映画祭について、延べ 5,000 人を超える参加者に来場いただいた。地域から、再開を希望する声があったので実施できてよかった。また、小田急沿線から複数のブルワリーに参加いただき、新たな西新宿における体験価値を提供することができた。

〈イベント情報について〉

（発言者B）

○ コミュニティ情報を可視化していくためには、地域で活動をしている方々との関係づくりが重

要。まずはイベント情報を可視化し、そこから関連するコミュニティを探していくことができるようになるのではないか。

○ AI活用により、アプリ・システムの開発効率が向上した。西新宿内での取組をより進めていきたい。

（発言者C）

○ 弊社はデジタルツインを活用した防災施策やドローンと連携した研究に取り組んでいる。実験中・開発中のものが多いが、今後は検証範囲を広げていきたいと考えている。また、AIの活用についても得意としている分野のため、当協議会で貢献できればと考えている。

（発言者D）

○ 令和2年度から自動運転タクシーの実証実験に取り組んできた。今後、自動運転の取組を進めるに当たっては、安全性を確保するとともに利用者や地域の課題解決にどのように貢献するのかを明確にすることが重要。安全性を担保しながら何を進めていくか検討していきたい。西新宿は高層ビルが立ち並ぶエリアであり、このような環境下で実施する自動運転実証から得られる知見は他地域にも展開可能な価値のあるものと考えられるため、引き続き検討していきたい。

（発言者E）

○ 西新宿の地域冷暖房は、当社が管理する中で一番古い地域冷暖房システムになる。経年した設備をどう改修していくのかは大きな課題であり、コージェネレーションシステムを導入する等の取組を進めている。西新宿において需給連携の取組を進め、エリア全体の省エネや、将来的なデマンドレスポンスなどの創出につなげていきたい。

（発言者F）

○ 周辺のビルのみなさんが楽しめるイベントを定期的に実施しており、こうしたイベントなどを通じて地域に貢献できればと考えている。

（発言者G）

○ スマートポールについて、データ利活用とサイネージの利用に取り組んできた。密度が低くなっても様々なエリアでデータを取得できると良い、などの意見があった。今後もスマートポール整備が進む場合は、これまでの取組も踏まえて計画を進めていく。

○ 無電柱化が進む場合、ロードサイドアセットとして、スマートポールは増えていくと思うため、これまでの知見を活かして議論していきたい。

（発言者H）

○ スマートポールについて、例えば災害時の情報発信だけでなく避難場所等の、地域のより具体な災害情報の掲載ができるのではないか。また、サイネージを活かし、AI解析を使ったよりインタラクティブな機能を持たせるなど、スマートポールの活用幅はあるのではないか。

（発言者I）

○ デジタルツインについて、昨年度は主に庁内や有識者との協議の場で活用いただいたが、今年度は沿道地権者の方々など、より対象者を広げ活用できるようにしたい。 人流解析実証など、別の活動の内容にもデジタルツインを通じて関わっていければよいと考えている。

（発言者J）

○ スマートシティフェスタなど地域のイベントについて、毎年実施することで、継続的にイベントに来ていただく人が増えた。少しずつスマートシティの取組が事業者・行政以外のファミリー層にも広がってきたと感じている。

（発言者K）

○ 西新宿地区再整備推進検討会の中で、将来のまちの絵姿を描いており、その絵姿の中にデジタル技術がまちに溶け込んでいる表現をすることが重要と考える。
○ 協議会で得られた知見も踏まえ、検討会の中で議論を進めていきたい。

7． 閉会の挨拶（事務局）

■ 閉会の挨拶

（一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会）

西新宿では、協議会活動の継続を通じて注目が高まり、他自治体や学生などのまちづくりの取組を紹介する機会も増えている。その中で、「スマートシティの実現により何ができるようになるのか」「どのような豊かさや利便性が得られるのか」といった関心も高まっている。今後、2030年、2035年に向けたまちの変化を見据え、空間整備とデジタルサービス、データ利活用を組み合わせることで生まれる新たな価値や活動を、より具体的なビジョンとして示していくことが重要である。人々の幸福やQOLの向上を軸に、防災、モビリティ、エネルギーなどの都市課題の解決にもつなげながら、地域とともに取組を推進していきたい。

以 上